あらゆる病気の元凶となっている活性酸素

活性酸素が原因と考えられている病気

腫瘍
がんの発生、がんの転移、
化学療法と放射線療法の副作用

脳神経
認知症、パーキンソン病、脳浮腫、てんかん
アルツハイマー型認知症

皮膚
アトピー性皮膚炎、しみ、しわ、日光皮膚炎
熱傷（火傷）

眼科
白内障、眼精疲労、未熟児網膜症、
中心性脈絡性網膜症

婦人科
乳がん、子宮頸がん、更年期障害、生理不順
妊娠中毒症

消化器
肝炎、膵炎、胃潰瘍、肝臓癌、胃癌、咽頭癌
膵臓癌、十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、
クローン病、脂肪肝

循環器
動脈硬化、脳梗塞、心筋梗塞
再灌流障害（脳浮腫増強、出血性梗塞など）
異常ヘモグロビン症、薬物性貧血
播種性血管内凝固、低血圧症、高血圧症

内分泌代謝
糖尿病、メタボリックシンドローム、肥満

呼吸器
慢性閉塞性肺疾患*（COPD）、肺癌、喘息
*慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれていた病気の総称

免疫系
自己免疫系疾患（膠原病、関節リウマチ等）
各種アレルギー、花粉症、アレルギー性鼻炎

泌尿器
腎炎、薬物性腎障害、むくみ

その他
歯周病、痛風、蓄膿症、痔、頭痛、不眠、
冷え性、疲労感、便秘、口内炎、筋肉痛、
口臭、放射線被ばくによる健康被害

水素は活性酸素を還元して無害な水に変えます

水素吸入.com

「水素水」ではなく「水素ガス」

水素ガスで摂取が◎

水素量比較

水素吸入(H_2 Cube)

1時間吸引　18600ml

(水素水 930L相当)

高濃度水素水

1L中　20ml*

*1Lに溶存可能量より算出

注:
水素水は温度、衝撃等で簡単に抜けるため摂取する際に最大溶存量を摂取することも実際は困難

吸収経路比較

水素は血液から全身に届かせることで全身へ抗酸化作用を発揮する

⇨ 経口摂取

⇨ 胃酸で消費

⇨ 肝臓で代謝
(大部分を消費)

⇨ 血液から全身へ

⇨ 経口摂取

⇨ 肺から血液へ

⇨ 血液から全身へ

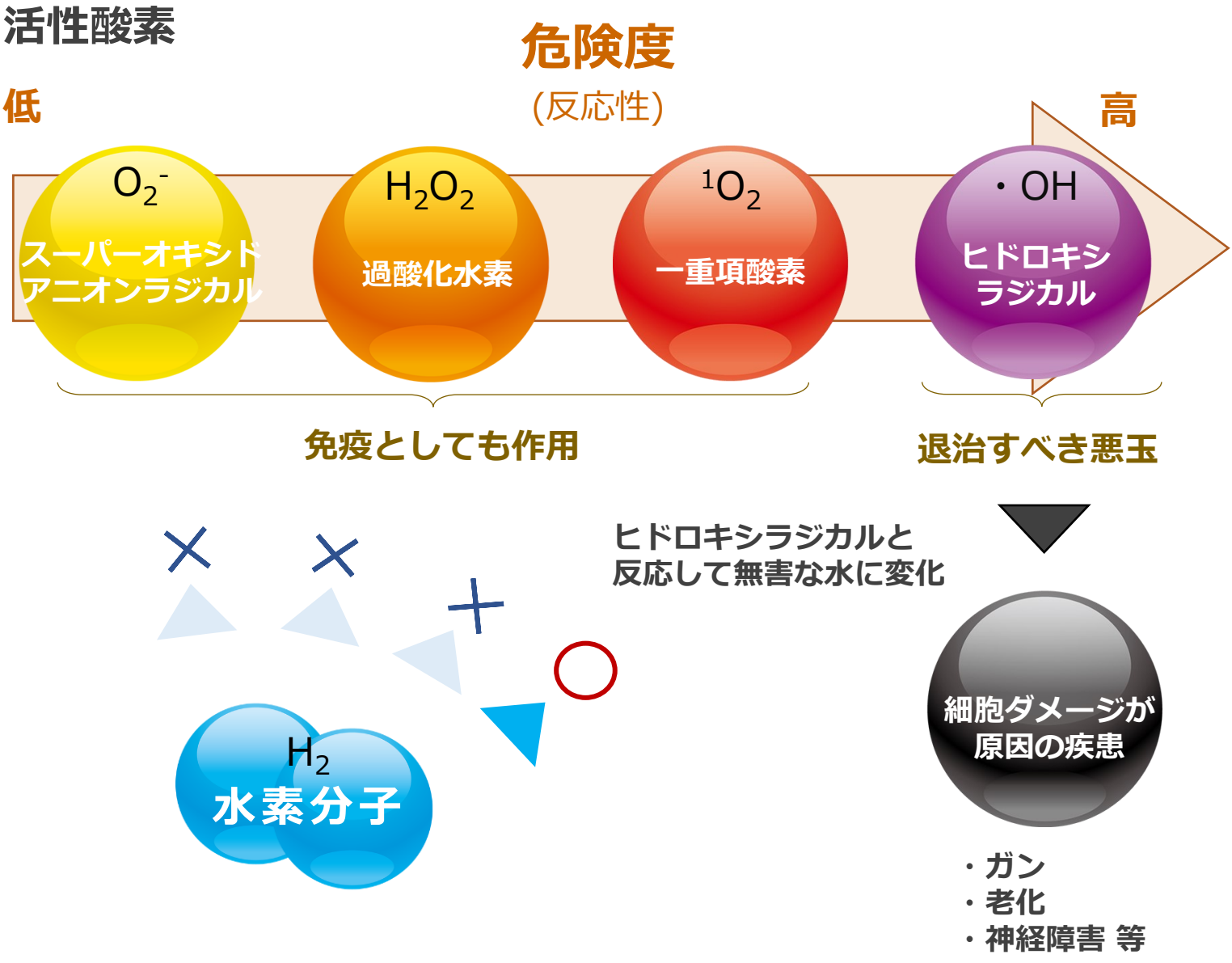
水素ガスは細胞内を自由に行き来するので脳までダイレクトに届くとも言われています

水素吸入.com

悪玉だけを退治できる水素

活性酸素は4種類

免疫として作用したり細胞を傷つける



水素分子は化学的に安定をしているので

反応性の高いヒドロキシルラジカルとのみ反応をする

免疫として作用する活性酸素とは反応をしない特性を持つ

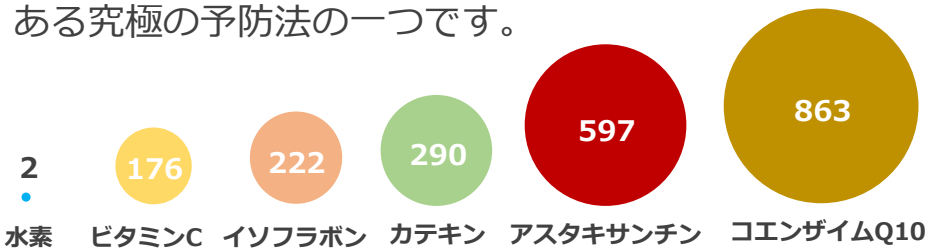
水素吸入.com

抗酸化物質の王様「水素」

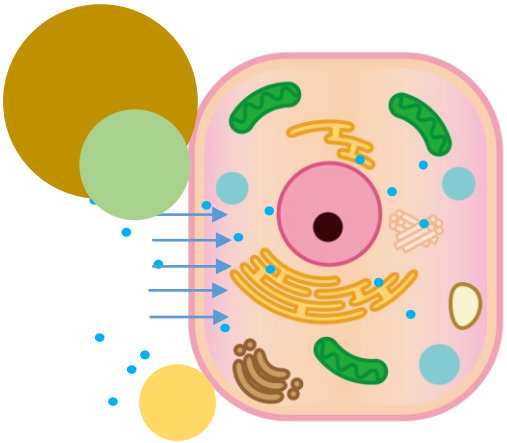
細胞内を自由に行き来し、特別な性質を持つ

宇宙一小さい最高の抗酸化物質

水素分子は、「ビタミンCの約1/88」「コエンザイムQ10の約1/432」「細胞の 1/2500000 (250万分の1)」
水素分子は小さいため血液を介して自由に細胞内までいきわたり身体のサビを掃除をしてくれます。
細胞膜をすり抜け細胞核を含む中まで隅々に届くとも言われ、あらゆる病気を未然に防ぐ可能性がある究極の予防法の一つです。



水素は細胞内まで
隅々いきわたりますが
他の抗酸化物質は
細胞内までは入れない



特殊な性質“水溶性で脂溶性“

■ビタミンCやコエンザイムQ10と違う特別な性質

水素の特異的な特徴の一つが水溶性・脂溶性の両方の性質を持つことです。ビタミンCは水溶性なので水溶性のものに浸透し抗酸化作用を発揮します。
ビタミンEなどは脂溶性のため、脂質成分に溶けることで抗酸化作用を発揮し、高脂血症などに作用します。
水素は水溶性・脂溶性どちらにも作用できるという特殊な性質を持っています。そのため水素をとるだけで全身にどの抗酸化物質よりも確実に届き、作用します。

代表的な「抗酸化物質」

ビタミン・ミネラル：
ビタミンC、ビタミンE、コエンザイムQ10、亜鉛、セレン等

酵素：
スーパーオキシドジスムターゼ、グルタチオンペルオキシダーゼ等

ポリフェノール・カロチノイド：
カテキン、リコピン、アントシアニン酸、アスタキサンチン等

水素って本当に効果があるの？

効果が確認された論文は1500以上 (2020年5月現在)

厚生労働省からも認められ日本TOPの医療機関も導入

「水素ガス吸入療法」として効果があると認められ「先進医療B」として日本の総理大臣も通院する慶應大学病院でも導入がされています。

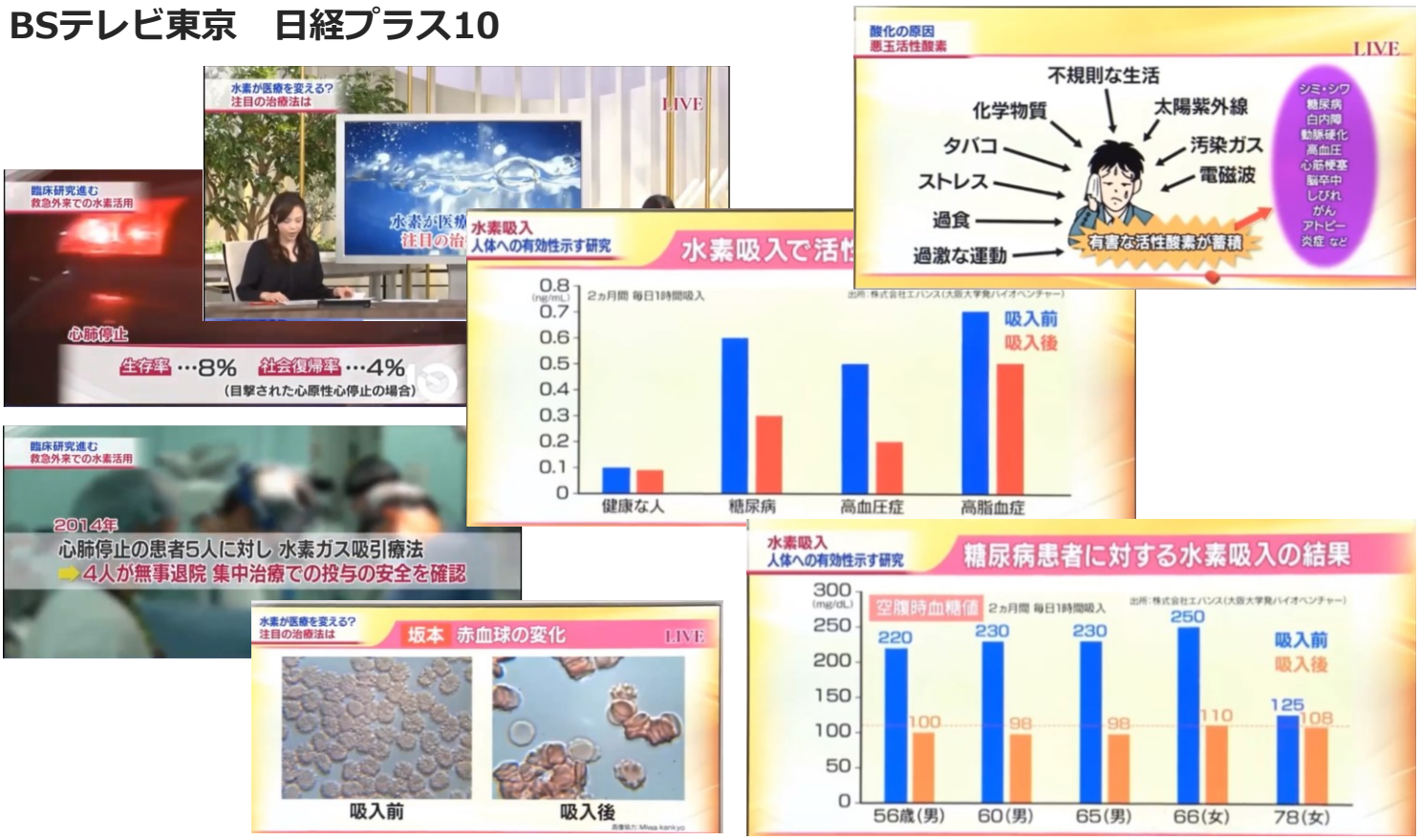
先進医療Bとは？

未承認等の医薬品若しくは**医療**機器の使用又は医薬品若しくは**医療**機器の適応外使用を伴わない**医療**技術であって、当該**医療**技術の安全性、有効性等に鑑み、その実施に係り、実施環境、技術の効果等について特に重点的な観察・評価を要するものと判断されるもの。

慶應大学病院HP

効果はメディアでも取り上げられています

BSテレビ東京　日経プラス10



品質の基準：生成量と純度

効果と安全性の尺度となる「生成量」と「純度」

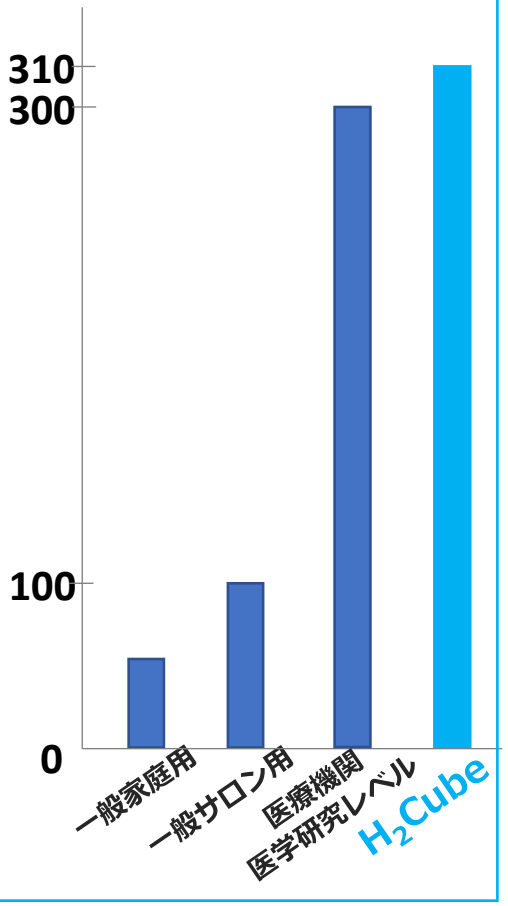
家庭用の5倍、他社サロン機器の3倍の水素生成量

水素濃度は通常購入できる水素生成機器の中でも圧倒的な生成量を持っています。

1/3の生成量の場合同等量を摂取するためには3倍の時間吸入しなければなりません。

他サロンの1時間分の水素が20分で吸入可能。

一般家庭用機器L	60ml/min
大手一般サロン機器	100-120ml/min
医療機関・医学研究	200-300ml/min
H_2Cube	**310±10ml/min**



水素純度 99.999%

水素はガスで直接体内に取り入れるため、**「純度＝安全性」**と直結します。水素自体が副作用がないことが証明されていたとしても水素に交じり不純物が生成され、それを吸引することは健康増進と同時に健康リスクにさらすことになります。

他社の「99%」や「99.99%」よりも優れている「99.999%」という純度で、より安心してご利用いただけます。

豆知識：%表記違いの意味

・99% ・・・・ 98.6-99.4%

・99.99%・・・ 99.986-99.994%

・99.999%・・99.9986-99.9994

「99%」と「99.999%」の最大差異 「1.3994%」

推奨される吸入頻度

どのくらいの頻度で吸入するのがよいの？

水素が身体に留まるのは、短い人で7~8時間、長い人で2~3日と言われています。目的毎に吸入の目安は変わってきます。

目的別の吸入頻度例

深刻な症状	症状緩和	疾患予防	美容・ アンチエイジング
具体例: 糖尿病　脳梗塞 脳腫瘍　心筋梗塞 抗がん剤副作用軽減 大腸がん　乳がん 前立腺がん　肺癌 腎臓がん　肝臓がん 自己免疫性疾患 脳、神経疾患 (パーキンソン病他)	具体例: リウマチ　胃潰瘍 アトピー性皮膚炎 白内障　緑内障 花粉症　膀胱炎 胃炎 ストレス性疾患	具体例: メタボリック症候群 脂質異常　二日酔い 夏バテ　肩こり 便秘　ED　冷え性	具体例: しわ　しみ　くしみ 肌のハリ 肌のつや 不眠　だるさ 眼精疲労
参考頻度： 期間　6か月以上 時間　1-2時間 回数　1~3回/日	参考頻度： 期間　3か月以上 時間　1時間 回数　1回/日	参考頻度： 期間　ー 時間　0.5~1時間 回数　2~3回/週	参考頻度： 期間　ー 時間　0.5時間 回数　1~2回/週

※推奨時間は目安です。個人の状態・体質により大きく変わります。

※※上記の頻度でないと効果実感がないというわけではありません。

水素吸入.com